

5 野生鳥獣による農林業被害軽減のための農林生態系管理技術の開発

(研究開発課)

1 趣旨

野生鳥獣、中でもシカ、サル及びイノシシによる農林業被害が拡大しており、コストをかけ防護柵等を設置しても十分な効果が得られなかったり、かえって被害が拡大する等大きな社会問題となっており、とりわけ、中山間地域においては農業等の産業振興を図る上で大きな阻害要因となっている。

また、鳥獣保護法の改正により、野生鳥獣の個体群について、科学的知見を踏まえた保護管理目標を設定し、これに基づき、個体群管理、被害防除対策等の手段を総合的に講じることにより、科学的・計画的な保護管理を推進することが求められている。

このため、野生鳥獣の適正な個体群密度の解明、生態・行動特性の把握、土地利用形態との相互関係の解明及びこれらの科学的知見を踏まえた効果的な防除技術の開発を行い、深刻化している野生鳥獣による農林業被害の軽減に資する。

2 内容

(1) 野生鳥獣の個体群管理のための技術的検証

野生鳥獣の個体群推定技術の開発と適正な個体群密度の検証

(2) 農林地の管理形態と野生鳥獣の相互関係の解明

野生鳥獣の生態及び行動と土地利用形態との関係解明

(3) 農林業被害の発生要因の解明と予察及び軽減手法の開発

農林業被害の社会経済的要因の解明と農林業被害地における各種防除技術の効果の総括的評価

3 実施主体 独立行政法人、都道府県、大学、民間

4 実施期間 平成13年度～平成17年度

5 平成17年度概算決定額 100（100）百万円

6 達成しようとする成果

(1) 野生鳥獣の適正な個体密度の推定技術の開発

(2) 野生鳥獣の生態及び行動特性の把握等を通じた効果的な防除技術の開発

野生鳥獣による農林業被害軽減のための農林生態系管理技術の開発



期待される成果

- 適正な個体密度の策定
- 野生鳥獣の生態及び行動特性の把握
- 土地利用形態と野生鳥獣の行動との相互関係の解明
- 効果的な防除技術の開発

農林業等への影響

シカ密度



適正な個体密度の検証



効果的な電気柵の開発



被害防止に必要な
行動特性の調査分析